



芝山小だより



7月号
清瀬市立芝山小学校
校長 寺井 俊敬
<http://www.kiyose.ed.jp/>

「かかわり力」を高めるために ～タブレット端末を活用して～

校長 寺井 俊敬

晴れの日もありますが、全体としては雨の日が多く、うっとうしい日々が続きます。それでも、8時15分、昇降口で子供たちと朝の挨拶を交わすことで、1日元気にスタートすることができます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4月から発出されていた3度目の緊急事態宣言が6月20日に解除されました。思えば、昨年の4月7日、宣言が発出された日、都の新規感染者は87人でした。そして、解除された5月25日は8人でした。今回宣言が発出された4月25日は635人、解除された6月20日は376人です。1回目の宣言とはまさに桁違い、解除されたとはいえ、決して油断していい数字ではありません。しかし、今までも、芝山小学校では、教育委員会と連携して、感染症に気を付けて教育活動に取り組んで参りました。もちろん、日常の健康観察、マスクの準備等、保護者の方々のご協力も欠かせません。

コロナ禍前の元通り、とはいきませんが、6月からは水泳指導が始まりました。また、宣言が解除されたのを機に、低・中学年は、生活科や社会科で学校のまわりの地域の様子を知るために校外学習に出かけます。高学年は、感染に気を付けながら調理実習も実施いたします。

ところで、本校の目指す児童の資質・能力は「自学力」「言語力」「かかわり力」です。コロナ禍でも、自ら課題を見付け課題を解決していき「自学力」を高めたり、音読集を活用しての音読や俳句活動を通して「言語力」を高めたりしてこることはできました。しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大し、さらには、長く続いた緊急事態宣言下では、日常の学習で声を出して話し合うことが十分できなかつたり、様々な行事が中止になったりして、児童のかかわる活動は極端に制限されていました。

そこで、「かかわり力」を高めるために役立つ道具が、GIGAスクール構想に基づき配布された一人一台の「タブレット端末」です。もちろんタブレット端末は万能ではありません。直接体験でしか学習できないことや、紙媒体の方が早く確実に身に付くこともあります。

教員には、タブレット端末を使うことが目的になってはいけないとは伝えていますが、今年はどんなことができそうか、いろいろ試すように話したところ、早速に、理科や社会、総合的な学習の時間等での検索機能を使い始めました。また、先週ホームページにも掲載したとうもろこし農家の野村さんとの間接的な交流や、「アンケート機能を使ってみます。」「体育でタブレットを使って写真に撮ってみました。」「classroom を活用します。」と本校の教員は様々な活用にチャレンジしています。さらには、感染症対策、熱中症対策を兼ねて、1学期終業式、2学期始業式は校長室と各教室をリモートで結んで行うことにしました。

このコロナ禍で失っていた「かかわり力」を取り戻し、今まで以上に高めていけると期待ができます。

タブレット端末は、しばらく学校での活用となりますが、「かかわり力」を高めるツールの一つとして、その活用に取り組んで参ります。

宣言が解除されても、基本的な生活習慣は変わりません。手洗い、マスク着用について指導していきます。職員による消毒も続けます。引き続き各ご家庭での健康観察をよろしくお願いいたします。

※学校生活の様子を「校長室より」というページで紹介、1週間に1回程度更新しています。是非ご覧ください。

